

令和3年度

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 自己評価報告

1. 実施方法

自己評価表は『専修学校における学校評価ガイドライン』(平成25年3月)をもとに作成し、全職員によってそれぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1(不適切)~4(適切)」の4段階評価とし、併せて可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価の項目と内容

自己評価は、次の10を大項目として、質問・回答形式で行った。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 |
| (4)教育成果 | (5)学生支援 | (6)教育環境 |
| (7)学生募集 | (8)財務 | (9)法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域連携 | | |

3. 自己評価結果 総括

(1)教育理念・目標

教育理念は高岡第一学園の建学の精神に掲げており、学園全体で志しているものである。学校の教育目標は、建学の精神をもとに定められている。これらの教育理念・目標について、教職員は熟知し、新入生オリエンテーションを始めとして折に触れて学生にも伝えている。また、ホームページや学校案内にも記載している。

(2)学校運営

年度初めに事業計画の策定を行ったうえで、定期的に各運営会議(教職員会議・成績会議等)や日々の朝礼等を通じ、学校運営の進捗状況や課題などを全職員で共有している。

今年度も新型コロナの影響を受け、行事、実習などが例年通り実施できないものがあった。その度に職員全員で話し合いを重ね方向性を決定した。特に行事は感染状況をふまえ、中止と判断したものもある。また、感染症対策をした上で実施することを決めたものは職員間で意見交換を重ねながら最善を尽くすように努めた。また、感染者等が出た場合の対応についてもマニュアルを作成して備え、その時々最新の情報を元に修正しながら学校運営に努めた。

(3)教育活動

教育課程および授業時間数、学則は変更や追加などがある場合に所管の富山県に提出・承認をいただいている。

令和3年度は、9月に富山県厚生部による「指定保育士養成施設指導調査」があり、適切に学校運営がなされていることが認められた。

また、令和4年度より「領域における専門的事項」の科目を変更するための申請を文部科学省に提出し、3月に承認を受けた。それに伴い、富山県厚生部に指定保育士養成施設変更承認の申請をし承認された。

カリキュラムについては、「ボランティア実習」が令和元年度より科目に加わりより実践力を身に付ける内容になったが、コロナの影響で今年度は一部実習できず、代替えのプログラムで実施した。施設実習では多くの施設で実習中止になったり、期間の短縮を求められたりし、学生の実習時間の確保のため学内実習に振り替える措置をとることとなった。その際に県内の各施設より講師を招聘し学内で講義をしていただいた。現場での実習が叶わなくても関係機関と連携を取りながら少しでも実践的な学生の学びにつなげることができたと思っている。

教員の研修についてはオンラインでの研修が主流になりつつある。移動など物理的な負担が少ないこともあり、今後もこの傾向が続くと予想される。参加できるものは積極的に参加し、教職員の資質向上に努めていきたい。

(4)教育成果

就職希望者の内定率は100%である。就職指導は履歴書の作成、面接、実技、小論文・作文指導など、個別に丁寧に行っている。今年度は資格取得率も100%で、全員が保育・福祉関連への職場で資格を活かして働くことを希望していた。就職活動にはコロナの影響はあまりなく、求人も例年通り多く寄せられた。また公務員を希望した学生のうち1名が市町村への就職が決まった。

退学率については前年度よりも上昇した。特に1年生の退学者が目立つ。学ぶ意欲がなくなり、興味が他のところに向いてしまう傾向がある。1年次は座学中心になってしまうが、意欲をもって学び続けられるような授業の工夫や、充実した学校生活を送れるようなサポートの必要性を感じている。

(5)学生支援

少人数の学校である強みを生かし、学生一人一人を丁寧に支援している。担任中心に全教員が関わり、学生が自分自身の能力を伸び伸びと発揮できる学校を目指している。学生の相談は面談や電話だけではなく、ラインなども使って気軽にできるようになり、サポート体制は整っている。

経済的に困難を抱えている学生への支援も複数の支援体制で対応しており、必要な学生には個別に丁寧に説明を行い漏れる学生がないようにしている。

コロナ禍ではあるが、保護者との連携は行事や面談等を通して行っている。保護者側からも積極的な参加があり、学校運営に理解をいただいていると感じる。

(6)教育環境

専門教育に必要な設備・施設は十分に整えられているが老朽化しており、必要な修繕を繰り返すことで対応している。コロナ感染防止対策としては消毒、体温計などの最低限のものは準備している。また、抗原検査キッドの準備もある。

学びの環境としては、十分にソーシャルディスタンスがとれる教室を使用できている。少人数の学校のメリットとして、今後も活用していきたい。

(7)学生募集

学生数の減少を危惧しており、6年連続重点目標に「学生募集」を掲げ取り組んでいる。毎年学生募集に一定の効果をあげている「高校生のための幼児教育体験講座」が今年度も前年度

に引き続き1回のみ開催になり参加者が減少したことは痛手であった。また、「社会人のためのオープンスクール」では4名が参加した。

全体的には定員充足率は低下しているため、引き続き課題としていきたい。また、対面式の進学相談会の回数が非常に少なく、広報活動が効果的にできていない。オンラインによる進学相談会も情報機器等の環境が整わずに参加できていない。今後の社会状況を見極めながら対応を検討していきたい。

(8)財務

学校の財務基盤は学生の減少により厳しくなっている。

予算・収支計画は毎年本学園の理事会にて予算報告を行い、理事の承認を受けている。また、財務については学園本部でとりまとめ、会計監査が適正に行われている。財務情報はHPで公開し誰でも閲覧できる環境を整えている。

(9)法令等の遵守

設置や運営に関する法令は遵守しており、厚労省、文科省、所管の富山県総合政策局の指導を受けながら適正に運営がなされている。

自己評価はH26年度より毎年実施し、問題点を話し合い改善に向けて取り組んでいる。ホームページでの公開もH27年4月よりしている。また、H28年より学校関係者評価も実施し、その内容もホームページ上で公開している。

(10)社会貢献・地域連携

本所では年に一度一般公開の幼児教育講座を開講しているが、大人数の参集が難しいと判断し、昨年に引き続き附属園の勤続10年未満の若い保育者向けの研修会として12月に開催した。また毎年教員が要請に応じて附属園を訪問し指導助言を行っている。

社会貢献としては、教員がそれぞれの専門分野を活かし、多岐にわたる分野で地域や社会に貢献している。

また高校生、中学生、社会人、現役保育者、それぞれに向けての講座・講習会を開催し、地域や社会へ貢献している。

地域連携という点からは、今年度は外部から特別講義の実施依頼や、ボランティアの斡旋依頼が少なかったが、高岡市立図書館での読み聞かせボランティアは3回実施した。次年度以降コロナ感染の心配がなくなり各施設での活動が再開されたときにはまた特別講義の依頼を引き受けたり学生のボランティアを推奨したりと地域に開かれた学校を目指していきたい。

4. 重点目標について

①学生募集

《取り組み内容》

- ・4月：附属幼稚園のチラシに高校生のための幼児教育体験講座、社会人のためのオープンスクールのお知らせ広告掲載
- ・6月：県内高等学校への学生募集（保育コース、福祉科のある高校中心に）
高校訪問の際に出前講座開催チラシを配布(6月)
- ・7, 8月：学校のPRラジオCM出演

- ・5月～：業者主催の学校説明会の参加
- ・7月：高校生のための幼児教育体験講座（50名参加）8月中止
- ・8月：県外高校、県内2回目高校訪問はできなかったため各校へ要綱を送付する。
- ・10月：実習園、図書館、子育て支援センター、市役所に「社会人のための～」チラシ配布
- ・12月：高岡市広報に「社会人のための～」の広告掲載

北日本新聞社ゼロニィに「社会人のための～」の広告掲載

- ・1月：社会人のためのオープンスクール実施（5名申し込み、4名参加）
- ・2月：ハローワーク主催の職業訓練説明会に参加（富山、高岡、砺波、氷見）
 - ▲専各連主催の学校説明会の実施はできなかった。
 - ▲オンラインの学校説明会、オープンスクールはしていない

県内の養成校はどこも学生の減少傾向が見られているが、コロナ禍で募集活動が十分にできなかったのは痛手である。業者の企画する進路ガイダンスに参加する機会が激減し、先方からの依頼待ちの姿勢では学生獲得のチャンスはこない。積極的にアプローチすることも考えていかねばならない。高校訪問も時期によってはコロナの感染状況が悪化してできないこともあった。「高校生のための幼児教育体験講座」は例年7、8月の2回のところ7月の1回しかできていない。オンラインでの募集活動もしていないため全体的に一般学生に向けての広報活動が不足したように感じている。今後もより一層の工夫と努力が必要とされる。引き続き重点課題にして取り組んでいく。

②学生のソーシャルスキルを上げる（人間関係の構築・言葉遣い・マナー）

言葉遣いやマナーについては実習指導の中で取り上げているが、主に生活の中で気になったらその都度声をかけるようにしている。ただ、普段から注意していることを実習先でも注意されることがあり、学生によってはまだまだ自覚できていないことも多いと感じさせられる。欠席、遅刻、早退をした学生に連絡を入れる、自己判断しないことなどの社会人としてのマナーもくり返し指導している。

人間関係の構築については、実習や各行事の準備の中で仲間と関わり合い少しずつできていくものであるが必要に応じてサポートしている。授業の中でグループワークを積極的に取り入れる教員も増え、いろいろな仲間と関わりながら意見を交換したり、協力したりする中で信頼関係を築いていけるように工夫している。人間関係をしっかり築く力は対面授業を続けているからこそ十分に身につけられるのだと自負している。

③学生の減少、コロナ禍に伴う行事や教育活動の見直し

コロナ禍も2年目となり、今年度も感染状況等に左右されながら行事の開催の有無に悩まされた。今年度は昨年に引き続いて幼教際や北海道研修旅行はできず残念ではあったが、それ以外の行事は短縮したり、形を変えたり、感染対策をした上でほぼ実施してきた。昨年にはなかったものとして、2年生は秋に遠足に行けたことはささやかではあるが良い思い出になったようである。長期の修学旅行とはいかないまでも、できる範囲でできることを行っていくことの大切さを認識できた。今後も学校生活が充実したものになるよう工夫しながら取り組んでいきたい。

以上